

芸備線再構築協議会幹事会 実施報告

令和8年3月25日

国土交通省 中国運輸局

〔 第7回幹事会：令和7年12月24日（水）開催
第8回幹事会：令和8年 1月27日（火）開催 〕

第7回幹事会(令和7年12月24日)概要

○第7回芸備線再構築協議会幹事会(概要)

日時：令和7年12月24日(水)

場所：TKPガーデンシティ広島駅前大橋

1. 実証事業Aの実施状況	冬期増便や、これに合わせて行う二次交通、観光コンテンツ化、駅弁、観光ツアー等に取り組んでいる旨報告
2. 新調査事業の実施状況	乗込調査やアンケート調査の途中経過、事例調査に基づく再構築の視点整理、鉄道の地域経済効果検証の作業開始、 他モード実証のモード選択 の考え方について報告 ・利用者の機能強化ニーズを踏まえると、 バス実証 を基本として、 高校生・高齢者向けの路線バス や 観光客向けの観光バス を実証することが望ましい旨報告
3. 令和8年度実証事業・令和8年度調査事業 4. 令和8年度芸備線再構築協議会予算案	令和8年度実証事業・調査事業と予算案について構成員で一致 (来年度当初からの開始に向け議会への予算案提出を依頼) ・ 実証事業A B として、来年4～6月に鉄道実証を継続し、並行して5～9月に平日バス実証・休日バス実証を実施 ・ 方針作成等調査事業 として、実証事業A Bのデータ分析、地域経済効果比較を含む最適な交通モードの検討、再構築方針案の検討を実施

今後の進め方：1月に第8回幹事会を開催して、引き続き実証事業A・新調査事業の進捗状況を報告するとともに、来年度実証事業・調査事業の具体化について議論

「機能強化」については、昨年度のニーズ調査を踏まえると、「直通化・高速化」、「増発」、「駅・バス停増設」、「観光輸送強化」、「複数交通手段の統合」の優先度が高い

特定区間沿線地域における公共交通に対する期待（昨年度の36項目分析をもとに整理）

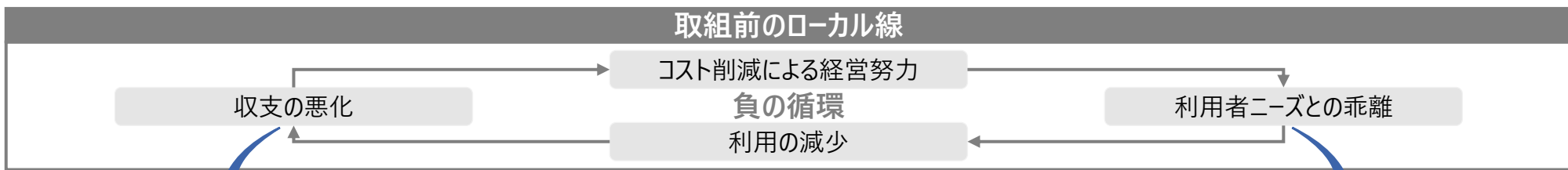
優先度の高い機能強化項目

対象者	利用者目線の期待	自治体・地域団体・交通事業者目線の期待		
高校生	<ul style="list-style-type: none"> 登下校に使いやすい交通 <ul style="list-style-type: none"> 複数の便を選択できる 部活動に最後まで参加できる 早く帰宅する際にも利用できる 運賃負担が重すぎない交通 遅れや運休が発生しづらい交通 運行状況を把握しやすい交通 	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車を運転しない人でも日常生活に困らない交通 地域住民の外出・交流を促進する交通 	<p>・・・</p> <p>地域のまちの格や暮らしに貢献する交通 収益・人材確保等の面で持続可能な交通 まちの認知度向上に貢献する交通 誇りを醸成する交通</p>	<p>直通化・高速化 （広島・新見～特定区間）</p>
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 運行本数が多く買物・通院等の外出で使いやすい交通 途中の乗換負担が小さい交通 			<p>増発 （通学、買物、通院、観光対応）</p>
観光客	<ul style="list-style-type: none"> 早く移動することが可能な交通 運賃負担が重すぎない交通 移動中の景色を楽しむことができる交通 乗換が少なく長距離を移動できる交通 	<ul style="list-style-type: none"> 観光地までのアクセス手段となる交通 観光の目的やきっかけになる交通 		<p>快適性向上 （相対的にニーズは低い）</p>
				<p>駅・バス停増設 （高校、病院、スーパー、観光地）</p>
				<p>観光輸送強化 （周遊促進、旅の目的となる交通）</p>
				<p>設備高度化・バリアフリー化 （相対的にニーズは低い）</p>
				<p>複数交通手段の統合 （限られたリソースの最大活用）</p>
				<p>他公共施設との連携 （相対的にニーズは低い）</p>

以上を踏まえると、「他モード」としては、バス等によって複数の機能強化を図る方向性が考えられる

ローカル線の利便性・持続性強化に向けた「幅広い選択肢」

代表的な事例



事業構造・交通体系の変更

鉄道を活用	上下分離	南阿蘇鉄道
	みなし上下分離	一畑電車
	第三セクター	ひたちなか、城端・氷見線
専用空間を活用	DMV	阿佐海岸鉄道
	BRT（一部専用道）	日田彦山線
一般道を活用	定時定路線バス（単一）	札沼線
	定時定路線バス（複数組合せ）	日高本線
	定時定路線バス+デマンドバス	留萌本線、津軽線、三江線

機能強化

直通化・高速化	南阿蘇鉄道、津軽線
増発	ひたちなか、城端線・氷見線、津軽線
快適性向上	一畑電車、城端・氷見線
駅・バス停増設	ひたちなか、日田彦山線
観光輸送強化	南阿蘇鉄道、京都丹後鉄道、南砺市
設備高度化・バリアフリー化	一畑電車
複数交通手段の統合	津軽線、東吾妻町、三豊市
他公共施設との連携	江見駅、北郷駅

運営体制の変更・強化

<p>単一交通手段の企画・運営</p> <p>右記以外の主要事例</p>	<p>地域公共交通全体の企画・運営</p> <p>津軽線（NPO）、東吾妻町（町営）</p>	<p>交通×観光・まちづくり全体の企画・運営</p> <p>三豊市（“交通商社”）、京都丹後鉄道（鉄道×DMO）、長門湯本温泉（まちづくり会社）</p>
--------------------------------------	--	--

総合的な分析（「他モード」の選択肢と実証Bの方向性） | 優先的に検討すべき選択肢の整理

機能強化策をターゲット層別に整理すると、①高校生向けに増便・経路変更した定時定路線バス、
 ②観光客向けに増便・直通化した定時定路線バスや観光バスツアー、
 ③高齢者向けのデマンド交通の3本柱を目指すことが考えられる

「一般道を活用」した機能強化の実現イメージ

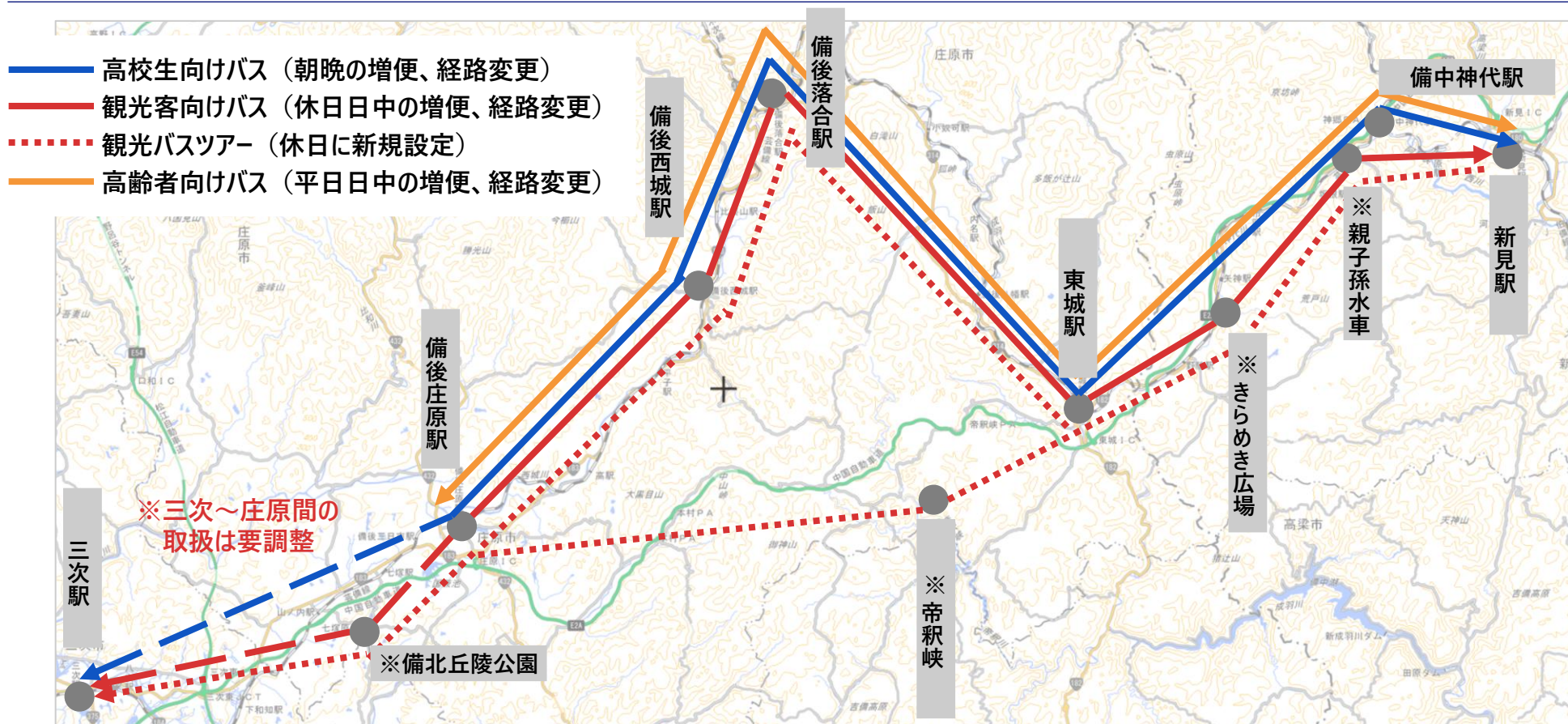


実証Bでは、予算や準備期間の制約もあることから、

- ① 高校生向けの増便バスを（三次～）庄原～新見間で運行、
- ② 観光客向けの増便バスを（三次～）庄原～新見間で運行し、別途バスツアーも実施、
- ③ 高齢者向けに病院やスーパーを経由するバスを庄原～新見間で運行 の3施策が考えられる

「実証B」のイメージ

注) 初期的なイメージであり、詳細は今後議論



具体的内容

1. 芸備線沿線の日常利用向けのバスの実証運行（実証B）

- ・ 平日の芸備線の運行に合わせたバスの実証運行として、芸備線沿線の主要道路を幹線的に運行するバスの実証運行を実施
- ・ 運行区間や運行ダイヤ等については、利用の利便性向上を図った上で、利用者ニーズや交通事業者の状況を踏まえて設定

2. 芸備線沿線の観光利用向けのバスの実証運行（実証B）

- ・ 来年度の実証事業Aにおける臨時列車運行（下記4.）終了後、土休日の臨時列車運行と同等の運行区間・運行時間帯において、バスの実証運行を実施

3. 日常利用者を対象とした乗車モニター調査（実証B）

- ・ 定期券利用者などの芸備線の日常的な利用者を乗車モニターとして設定し、モニターに1.のうちあらかじめ日時を指定したバスに複数回の乗車を依頼した上で、乗車時間・乗り心地・利便性などについてモニターからのアンケート調査等を実施

4. 住民・来訪者利用に合わせた鉄道サービスの拡充・二次交通との連携強化（実証A）

- ・ 臨時列車運行（令和7年7月19日～11月24日の土休日）と同様の列車運行やこれに合わせた二次交通の運行を令和8年4月～6月に実施

具体的内容

5. 企画乗車券の設定等（実証A・B）

- ・観光施設の割引利用券とセットになった企画乗車券の設定、鉄道とバスの相互利用可能な企画乗車券の設定のほか、バスの乗継割引などの運賃割引を実施

6. 観光ツアーの造成（実証A・B）

- ・土休日における芸備線の臨時列車運行やバスの実証運行に合わせて、観光ツアーを造成

7. プロモーションの実施（実証A・B）

- ・令和7年度に開設したランディングページやSNSの取組を継続し、実証事業A（鉄道）や実証事業B（バス）の運行情報、沿線地域に関する取組などのプロモーションを実施

8. 既存事業の強化・支援（実証A・B）

- ・実証事業A（鉄道）や実証事業B（バス）のそれぞれの実施期間において沿線地域で実施される取組について、取組の支援やプロモーションを実施

9. 委託事業に関するデータの収集・分析（実証A・B）

- ・実証事業A・Bにおいて得られたデータに基づいて、他の交通モードの地域経済効果の検証を実施
- ・検証結果については、鉄道と他モードの地域経済効果の比較検討等を行うため、「芸備線再構築方針作成等に関する調査事業（仮称）」において活用

具体的内容

1. 実証事業Bに関するデータ収集・分析

- ・実証事業Bにおける他の交通モードの実証運行と並行して、アンケート調査その他のデータ収集・分析を実施する

2. 実証事業A（令和8年4～6月）に関するデータ収集・分析

- ・前年に引き続き、令和8年4～6月にかけて継続する実証事業Aと並行して、データ収集・分析を実施する

3. 総合的な分析（地域経済効果の比較検討等）

- ・調査事業A・新調査事業・実証事業A・実証事業Bで収集・分析したデータを活用した上で、鉄道・他モードの地域経済効果について比較検討する
- ・このほか、最適な交通モードを判断するに当たっては、鉄道・他モードの地域経済効果の比較検討のほか、データとファクトに基づき、鉄道・他モードの再構築に係る初期費用・運行費用・自治体負担、鉄道・他モードが有する定性的価値、交通事業者の現況等も踏まえて総合的な判断を行うため、論点整理を行う

4. 再構築方針案の検討

- ・総合的な分析を踏まえて協議会において最適な交通モードについて議論した上で、交通手段再構築（鉄道再構築又はモード転換）に関する「芸備線再構築方針（仮称）」について検討する

○第8回芸備線再構築協議会幹事会 (概要)

日時：令和8年1月27日(火)

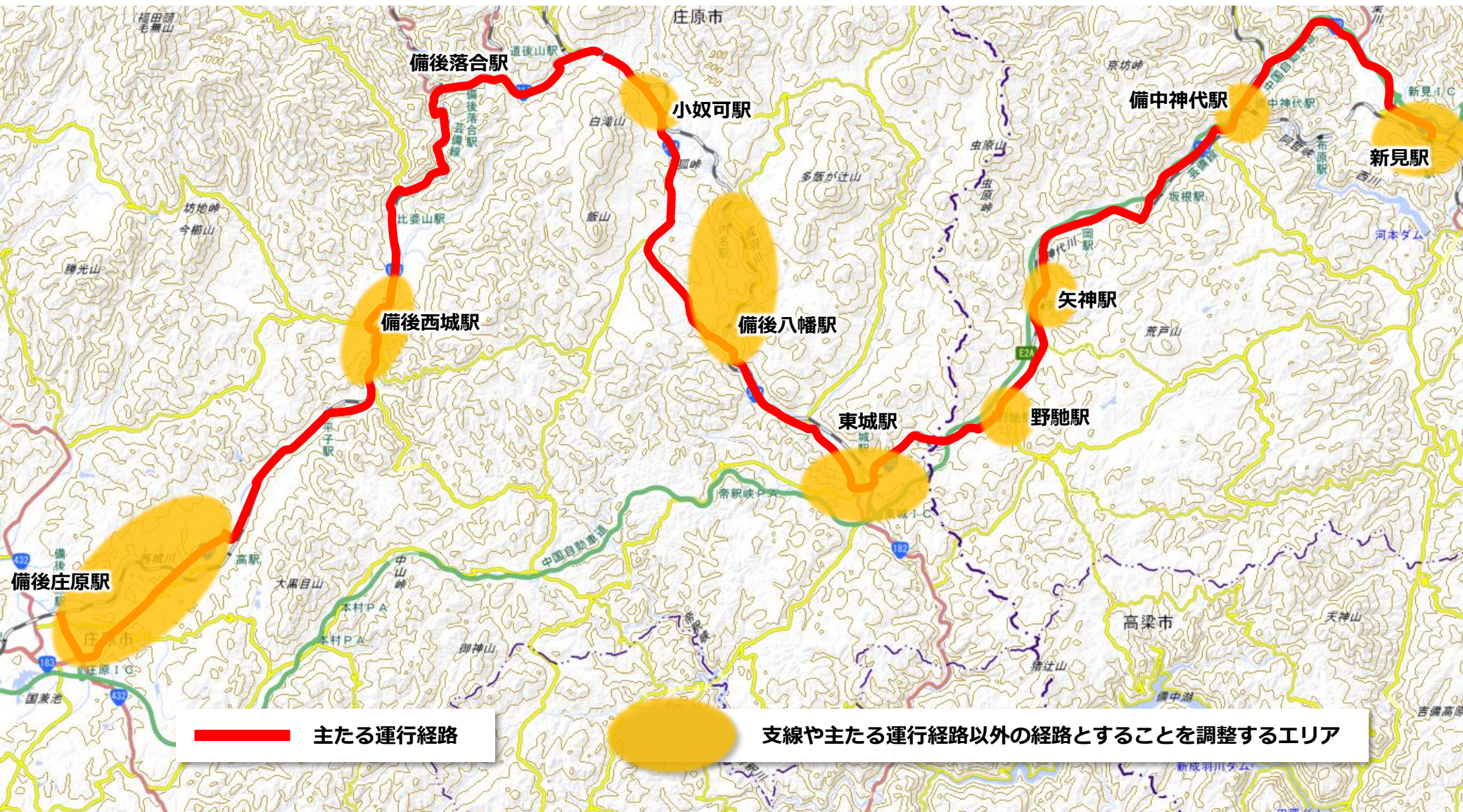
場所：TKPガーデンシティ岡山

議事：以下のとおり

1. 実証事業A 実施状況 (報告)	冬期増便や、これに合わせて行う二次交通、観光コンテンツ化、駅弁、観光ツアー等に取り組んでいる旨報告
2. 新調査事業 実施状況 (報告)	乗込調査やアンケート調査の途中経過、鉄道再構築の場合に生じる増加費用の試算、鉄道の地域経済効果検証の途中経過について報告
3. 令和8年度実証事業・調査事業 検討状況 (報告)	平日バス実証・休日バス実証のおおまかな運行ルート案 や実証事業・調査事業の事業委託先の考え方について報告 ・このうち、平日バス実証について、沿線の幹線道路を主たる運行経路とした上で、機能向上を図るべく、必要に応じて駅・学校・商業施設・病院等の主要施設への乗り入れを含めて運行ルートを検討している旨報告

今後の進め方：3月に第6回協議会を開催して、実証事業A・新調査事業の最終報告を行うとともに、来年度実証事業・調査事業案について議論し、来年度予算の承認を得る

【実証事業B】1. 平日日常利用向けのバス運行経路案(イメージ)



※主たる運行経路の中で運行区間を定めて運行する
※学校や施設までの支線は構成員が協議の上設定する

【実証事業B】2. 休日観光利用向けのバス運行区間案(イメージ)

